左から2番目の齊藤さんの右隣は、同じく拠点を支えるスタッフ、坂田忠久主任。

齊藤幸枝

Saito Yukie

さいとうゆきえ。長崎大学熱帯医学研究所アフリカ拠点総務勤務。総務・人事総括。北海道出身。地元の短大を卒業後、広告代理店勤務。その時出会ったケニア人の男性と結婚、ともにケニアへ。日本航空、南アフリカ日本大使館、JICAなどを経て2009年より現職。

日本でもケニアでも就職は〈縁〉です

アフリカ拠点のお母さんは、あの小説の主人公の…

「この人がいないと、アフリカ拠点は立ち行かない。そのくらい大切な存在です」。一瀬休生拠点長をして、そう言わしめる女性職員が、ケニアにある長崎大学の拠点で働いています。それが齊藤幸枝さん。

「それは言い過ぎでしょう!(笑) 私の仕事は、拠点で雇用されているスタッフ五十四名(九割以上ケニア人)の人事的な管理や、関係各所とのやりとりの実務、ケニアに来られる先生方の旅行手配、そして庭の植え込みから機材まで、設備の管理を担当しています」。

小さなことから大きなことまで。まさに拠点のお母さん! アフリカ歴二十四年だそうで。

「これまでの経験が生きています。ケニアの場合、連絡一つにしても電話や郵便より"レター"、つまり書類を直接やりとりして確認スタンプをもらうのが一般的です。日本の十倍くらい手間がかかるんですよ。ビザ申請などの公的な書類も、ケニアの法律にのっとって作成するので慣れるまで大変です」。

パートナーはケニアの方と聞きました。ここに至るまでの経緯が気になります。

「もともとは北海道出身。広告代理店で働いていたころ、留学していた今の主人と知り合いました。結婚してケニアや南アフリカへ。その間、旅行代理店、日本航空ナイロビ支店、南アフリカ日本大使館、JICAケニア事務所に勤務。二〇〇九年四月からこの拠点で働いています」。

日本航空ナイロビ支店といえば、もしやあの、山崎豊子原作で映画化された『沈まぬ太陽』の…?

「はい、モデルといわれる方が支店長で、三年ほど彼の下で働きました。映画で主演された渡辺謙さんほど濃くない、上品でハンサムな方でした(笑)」。

なんと! それにしてもご主人との出会いは日本で、それから結婚後もずっと仕事を続けてきたんですね。

「友人は無謀だと(笑)。人生は選択の連続、決めたら進むのみ。選ばなかった道のことは考えません。そもそも私の短大卒業時はすごい就職難で、日本、ケニア、南アフリカと環境が変わるたびに、職探し、面接、落ちてまた受けての繰り返し。五十社以上受けましたね。だから今の学生の就活の苦しみはよくわかります。でも、就職って縁。落ちてもめげないでトライ、そのうち必ず何かがきっかけで縁に恵まれるんだから、全然悩むことない!と私は皆さんにエールを送りたい。私の最初の勤務先なんて、三月三十一日に面接に行って決まったんですから! とにかく早めにいって一番手で受けたら、後から『百人以上面接してたら訳がわからなくなった、一番最初のあなたは覚えてるから』と」。

「休みの日は、動物好きの主人がボランティアで参加している活動についていきます。ナショナルパークで野生動物の数を数えるんですよ」。いかにもケニアならでは! 園内ではバーベキューなども楽しめるんだとか。これはその時の様子で、撮影者はもちろん最愛のパートナー!

齊藤さんほどのキャリアの持ち主の言葉は、重みが違いますね。

「海外での職探しはさらに困難。私はチャンスがあったら必ず面接を受けていました。だって英語での面接の機会って貴重な体験でしょ。くせのある英語や会話の練習と思えばいい。そうしているうち、憧れていたキャセイパシフィックと、日本大使館の両方からの誘いが同じ日に舞い込んで…嬉しかったですね。そういうものですよ」。

停電も断水ものりこえてサバイバルも日常に

齊藤さんの一日は早朝四時四十五分に始まります。掃除、洗濯をこなし、ナイロビ名物の交通渋滞が始まる八時前には拠点事務所に出勤します。

「ケニアでは、奥さんたちも外で仕事を持って、家事はメイドにさせるのが普通。でも私はそれが嫌だったので家事も自分で全部やります。昔は仕事から帰ってくると、やれ停電だ、断水だ、どっと疲れて落ち込むこともありましたが、慣れれば『雨がふってきたからタライを外に出そう』。今はだいぶマシになりました」。拠点からほど近いお住まいでご主人と二人暮らしの日々。

「彼は私にとって大切な家族。世界の平和って、世界中の人がすぐ側の人を大切にできればきっと実現するはず。私は多くは望まず、すぐ側にいる誰かを大切にしていきたい」。

「生き延びるために目の前にあるものをつかみ取っていくサバイバルです」と笑う齊藤さんのタフさと明るさが、まぶしい。アフリカ拠点がこれから大きく展開していくための基盤づくりには、こういった太陽のような人材が欠かせないのですね。

働くウーマン奮戦記

大学はわたしの仕事場 4

長崎大学で働く女性教職員の活躍ぶりを毎回お一人ずつ紹介します。ステキな先輩たちの後ろ姿を見て女子学生も何かを感じて欲しい。そんな願いをこめたコーナーです。